

普及活動情勢報告（令和8年7月分）

高吾農業改良普及所

トマトの個別目標収量の達成に向けて ～個別経営面談の実施～



面談の様子

農業改良普及所は、6月19～26日に促成トマト生産者18名の個別経営面談を実施しました。

面談では、着果データ、出荷データおよび3ヵ年決算分析をもとにR8園芸年度の経営目標の達成状況や課題を確認し、R9園芸年度に向けての改善策や目標設定について個々に協議しました。

生産者からは「栽培初期の着果を安定させるために、次作ではしっかり樹づくりをしたい」、「摘果不足により小玉化し、厳寒期の収量が少なくなってしまった。次作は摘果を徹底して、収量向上を目指す」など個々の課題や改善に向けた前向きな意見が出されました。

農業改良普及所では、今後も現地巡回指導を重点的に実施し、生産者の目標達成に向けた支援を継続していきます。

ニラの先導的栽培技術を学ぶ ～JA高知県コスモスニラ部会現地検討会～



現地検討会で先導的な栽培技術を学ぶニラ部会員

7月3日、JA高知県コスモスニラ部会が2ほ場において現地検討会を開催し、生産者12名が参加しました。

各ほ場の見学とともに生産者から栽培上の工夫について紹介があり、生理障害や病害虫の発生抑制を考慮した微量要素資材や微生物資材の使い方、新品種の生育試験の印象、高温や不安定な気象条件での効率的な作業の提案など、今後の栽培に役立つ技術が共有されました。

農業改良普及所からは、夏に高温となる近年の気象条件を踏まえて、有望品種を含めた品種試験の紹介を行い、生産者の関心を高めました。

農業改良普及所では、引き続き部会活動を支援し、技術向上のための指導を行っていきます。

茶の研修から就農までを考える ～仁淀川町地域おこし協力隊との面談～



地域おこし協力隊が2番茶の摘採研修をしている様子

7月22日、仁淀川町役場で同町の地域おこし協力隊4名を対象に、町、茶業試験場および農業改良普及所による面談を実施しました。

研修生の現状把握や協力隊卒業後の進路、研修内容の充実について検討するため、研修の実施状況や習熟度、今後学びたい内容や想定している就農形態等を聞き取りました。

4名とも卒業後の方向性が具体化している一方で、習得が十分でない技術や知識も明らかとなりました。

今後は、希望に応じた勉強会の開催や目標所得の実現に向けた具体的な就農形態の提案など、協力隊の就農に向けた支援を継続して行っていきます。